

医師不足は、医療を必要とする患者はもちろん、患者を支える病院、さらには、病院を支える医療従事者にとっても大きな問題だ。こうした中、製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)で本年度勤務する初期臨床研修医は20人となり過去最多となった。初期臨床研修医の確保は、地域医療を継続的に維持する観点からも重要という。同病院は「より質の高い研修病院を目指して西胆振の地域医療に貢献できれば」と話している。(松岡秀宜)

## 製鉄記念室蘭病院

# 初期臨床研修医、過去最多

### ■プレゼンも

初期臨床研修医は、基本的な手技や知識を身に付ける必要があるため、多くの経験が積めて腕を磨ける病院を選ぶ傾向が強い。一方、受け入れる病院(臨床研修指定病院)としては、勤務医として採用するため一定の医師確保にもつながらる。

臨床研修指定病院は、急性期医療の機能を果たす公立病院や民間病院が役割を担う。道内には55病院あり、西胆振医療圏では4病院が指定されている。

過去の実績などから、病院の受け入れ数には定員があるほか、症例数の少ない地方都市の病院は敬遠されがちになる。このため、地域や病院間で医師偏在も生



指導医のアドバイスを受けながら、中心静脈カテーテル挿入の安全な手技について、研さんを積む初期臨床研修医ら—製鉄記念室蘭病院提供



んだら、結果的に医師不足が加速する実情もある。

一方、道は、道内医育大  
学出身者の道外への流出を  
防ぎ、道外からの人材確保  
につなげる観点から「北海  
道臨床研修病院合同プレゼ  
ンテーション」を開催。こ  
のプレゼンでは各病院が躍  
起となり、その光景は「大  
学生の就職セミナーに参加  
する企業よりも熱を帯びて  
いる」（西胆振の医療関係  
者）状況という。

■フルマッチ  
本年度、西胆振医療圏の  
各病院に所属する初期臨床

救急症例の多さ、上級医と  
研修医がペアを組む当直体  
制、がん診療など高度専門  
医療の充実、沖繩離島診療  
所での地域医療研修の導  
入」などを挙げる。

#### ■サケの一生

臨床研修を義務化した新  
臨床研修制度が始まった2  
004年度（平成16年度）  
以降、地域での医育プログ  
ラムは「『サケの一生』が  
理想」との指摘もある。

具体的には①研修医は成  
長期を地域の臨床研修指定  
病院で過ごす②さまざまな  
病院で研さんし、技術を高

## 「西胆振の地域医療に貢献」

研修医は合計31人。このう  
ち、製鉄記念室蘭病院に所  
属するのは20人。また、同  
病院の本年度採用13人のう  
ち、医学生と研修病院の採  
用希望を照合する「医師臨  
床研修マッチング」での受  
け入れは9人。2年連続で  
定員充足率100%（フル  
マッチ）に達した。

前田病院長はこの状況に  
「学ばざる急性期症例の豊富さ、

め、経験も積む②医師とし  
て成長後、地域の臨床研修  
指定病院に「帰巢」し、常  
勤医や固定医として勤務す  
る」といった流れだ。

このため、地域の基幹病  
院での初期臨床研修医を確  
保することは「結果的に、  
10年先や20年先の地域医療  
に貢献する人材の確保にも  
つながる」（前田病院長）  
という。

今年4月、札幌市内では  
来年度の初期臨床研修医確  
保に向けた合同プレゼンが  
開かれたが、製鉄記念室蘭  
病院ブースへの来訪者は2  
年連続で一番多かった。こ  
うした傾向に、同病院では

「今後も選ばれる病院とな  
るよう、教育体制の充実に  
努めたい」（同）と一層  
の環境整備などに力を注ぐ  
考えだ。